

ICT を活用した e ラーニング教育手法に関する FD 研修の試み

江木啓訓[†] 加藤由香里[†] 須田良幸[†]

[†] 東京農工大学総合情報メディアセンター [†] 東京農工大学大学教育センター

概要

ICT を活用した e ラーニング教育は、高度な学習教材の整備、リメディアル教育や協調学習など多様な観点から期待されている。しかしながら、e ラーニング教育を実施するにあたって必要となる教員のスキルは多岐に渡るため、教授者が自らの教育目的に沿って ICT の技術を組み合わせることは難しい。教員が必要とする情報・映像のリテラシーについて整理し、ICT を活用した e ラーニング教育のための FD セミナーのデザインと実施を行った。

1. 東京農工大学における e ラーニング教育

東京農工大学では、2003 年度より遠隔教育による他大学との単位互換科目を設置している。2005 年度には「大学院教育の質的向上と機能の拡大」プロジェクトを掲げ、e ラーニング講義の収録用スタジオと、学生の受講用コンピュータを設置した e ラーニング教室、小金井キャンパス(工学部)と府中キャンパス(農学部)間のリアルタイム遠隔講義システムを整備した。e ラーニング講義コンテンツの作成は、小金井・府中の両キャンパスに設置した講義収録用のスタジオ(防音ブース)か、e ラーニング教室の電子白板を用いて行う。図 1 に e ラーニングに関連して整備した設備・施設の概要を示す。

教員が作成した講義ビデオや配付資料の提示を行うために、学習管理システム(moodle)を供用している。e ラーニングのコンテンツ掲載のほか、一般の教室開講科目においてもレポート課題の提示・回収と学生へのフィードバック、小テストの実施やディスカッションフォーラムの設置などに用いられている。学生・教職員ともに、学習管理システムには学内統一認証システムと連動したアカウントを用いてログインする。

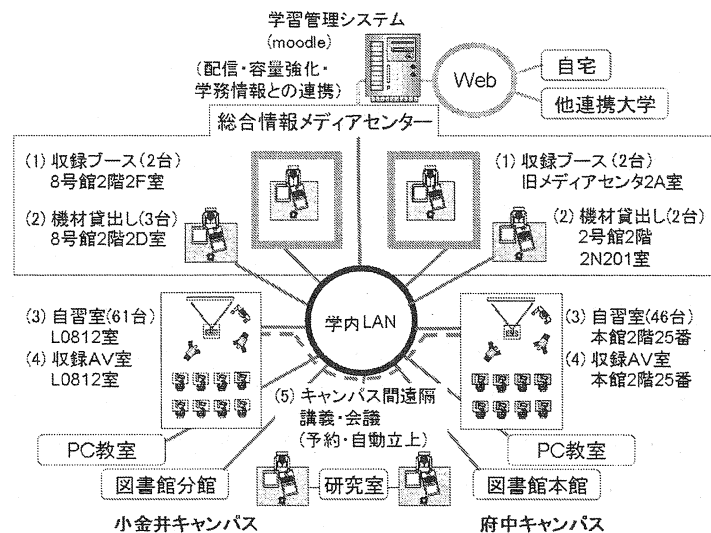


図 1 e ラーニング関連施設・設備の構成

2. e ラーニングセミナーの概要

これらの設備・施設の詳細は e ラーニングの Web ページで情報提供を行っている¹。しかしながら、利用の際に必要な情報は多岐に渡る。教員が実際に e ラーニングを行うために必要となる、総合的な情報提供と実習を行う学内向けセミナーを実施した。初級編・

¹ <http://www.elp.tuat.ac.jp/>

中級編と題し、前者は学習管理システムの活用を取り扱い、後者はビデオ教材の撮影と電子白板の利用をテーマとした。セミナーを構成する講義・実習内容は以下の4点である。

2-1. 教育メディアとしてのeラーニングに関する理解

eラーニング教育の実施目的と、導入する際に留意すべき点について理解する必要がある。ICTを用いた教育手法という側面から、学習管理システムやマルチメディア教材の特性やメリットについて説明した。

2-2. eラーニングに関連するソフトウェア・ハードウェアの利用実習

eラーニングを導入するにあたって、様々な情報システムや情報機器の操作が必要となる。学習管理システムや講義収録用のソフトウェアなどの操作方法や、教卓のAVシステムや電子白板、デジタルビデオカメラなどの機材の操作方法について実演・実習を行った。

2-3. 学内情報システムを利用するために必要な情報の提供

実際の講義で用いるためには、各種情報システムのURLやID・パスワードといった、本学に特有の様々な情報が必要となる。セミナー後にすぐ利用できるよう、これらの情報の整理と、その場で取得の手続きを行ってもらった。

2-4. eラーニングに関する施設・設備の案内

eラーニングに関する施設・設備や手続きを行う窓口などは建物・教室などの事情により学内に点在しており、利用上の心理的障壁となる可能性がある。これらの場所を紹介するキャンパスツアーと、実地での利用の実習を行った。

3. eラーニングセミナー実施の結果と課題

本セミナーは2007年9月に実施した。直後に参加した教員から後期(2007年10月開始)の授業で学習管理システムを利用したいという要望を受けた。セミナーで配布したマニュアルをもとに教室開設科目での利用が広がっていることから、利用のために必要な情報提供を行うことができたと考えられる。研修内容についてまとめたものを表1に示す。

1. 教育メディアとしての理解	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜeラーニングか ・利用するメリット、効果と留意点
2. ソフト・機器の利用法の習得	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトウェアの利用方法 ・マルチメディア機器の操作
3. 実施に必要な諸情報の把握	<ul style="list-style-type: none"> ・学内情報システムの把握 ・認証情報(ID・パスワード)の把握 ・施設、設備などの把握

表1 eラーニング教育の実践に必要な研修内容

また、セミナーでの実習後に、利用してみての所感や、自分の授業における活用の方向性について議論する時間を設けた。これにより、学習管理システムを用いた学生とのコミュニケーションや、ビデオ撮影の際の照明や講義方法などの課題について、実際に体験した上で理解することができたという指摘を受けた。

今後はeラーニングセミナーの構成・内容について整理を続けるとともに、マルチメディア教材の作成・利用を促進する研修内容の検討と、セミナーのeラーニング化を進めていく。